

明治期の立憲政治の確立等に貢献した先人の業績等を
次世代に遺す取組に関する検討会報告書素案（概要）（案）

1. 明治期における立憲政治の確立の歴史的意義

- 現代から見れば不十分であるとは言え、日本は、短期間のうちに立憲政治を確立することができた。今なお、民主化がスムーズに進まず、立憲政治の確立に課題がある国が存在することを鑑みれば、普遍的な意義を持っている。
- このような歴史的意義を持つ明治期の立憲政治の意義等については、後世に確実に残すことが重要である。

2. 明治150年を機に取り組むべき施策

(1) 検討の視点

- 立憲政治の確立に貢献した先人の業績等を後世に遺す取組としては、公文書などの「歴史的資料」を中心においた取組と、当時立憲政治の確立などに貢献した「人物」をテーマに据えた取組がある。
 - ※「歴史的資料」に着目した取組例
国立公文書館、国立歴史民俗博物館、山口県文書館、高知市立自由民権記念館
 - ※「人物」に着目した取組例
岩倉具視幽棲旧宅、大隈重信記念館、原敬記念館、鹿児島市維新ふるさと館
- 特に、「人物」と、その者が使用していた「場」の双方を組み合わせることで、より効果的な取組とすることが可能であり、双方を重視した取組を検討すべきである。

(2) 重視すべき「場」について

- 「場」を重視する場合、複数の人物の建物などが存在し、その一体的・有機的な取組が可能であるような「場」が望ましい。
 - 例) 那須：華族農場、大磯：歴代首相や政治家の別荘群、
 - 日光：外国大使館の別荘群、葉山：宮中関係者の別荘群
 - 函館：函館西部地区の町並み

(3) 取組を進めるべき具体的な「場」について

- 立憲政治の確立に貢献した先人との関わりでは、大磯が注目に値する。
- 大磯地区は、伊藤博文、大隈重信など歴代首相や、陸奥宗光など明治期に活躍した著名人が建物を所有し、これらの建物の一部が現存している。特に、伊藤博文は、明治憲法の起草など、我が国の立憲政治の確立に最も活躍した人物の一人であり、大磯に滄浪閣という本邸を構えていた。
- 滄浪閣の隣は、旧西園寺公望邸跡であり、近くには旧陸奥宗光邸、旧大隈重信邸が当時の姿を留めており、これら立憲政治の確立に重要な役割を果たした先人の建物が集中して残っていることは希有なことである。

(4) 当面の取組を進めるべき具体的な「場」について

- 「人物」と、その者が使用していた「場」の双方を重視した取組を進める上で、大磯地区は一つのモデルを提示しうる場所と考えられる。
 - 特に滄浪閣を中心とした建物群については、これらを一体的・有機的に活用するとともに、国立公文書館などとの連携による幅広い歴史的資料の活用などにより、特色ある取組が期待できる。また、建物群の周囲の景観や佇まいなどを活用し、観光やまちづくり施策との連携や、大磯城山公園にある旧吉田茂邸など歴史のある建物等との連携も考えられる。
- これらの取組を進めるに当たっては、国や地方公共団体等が適切な役割分担の下で、緊密に連携することが求められる。
- 一方で、滄浪閣については保存状態が不十分であるなど課題もあり、建物群の修復、保存を計画的に行うことが求められる。

(5) その他

- 建物保存の重要性については、明治期に建てられた建物全般に当てはまるものであり、保存・修復を行い、後世に伝えていくことが望まれる。

